

2018年度 年次報告書

2018年4月1日～2019年3月31日



タンザニア・JOCSワーカーが活動したンダラ病院での予防接種の様子

 **JOCS** 医療を通じて、愛を世界へ。

公益社団法人

日本キリスト教海外医療協力会

JAPAN OVERSEAS CHRISTIAN MEDICAL COOPERATIVE SERVICE

わたしがあなたがたを愛したように、 あなたがたも互いに愛し合いなさい。

ヨハネによる福音書13章34節

日本キリスト教海外医療協力会（JOCS）は、日本がアジアの人々に対して犯した戦争への深い反省に立ち、和解と平和の実現を願って1960年に設立されました。

1961年、JOCSは梅山^{うめやまたけし} 猛 医師を最初のワーカー

として、インドネシアに派遣しました。アジアの途上国での長期にわたる医療協力は、戦後日本で初めてのことだったので、日本の主要な新聞は大きく報道しました。

到着当初、インドネシアの人は、日本人である梅山

ワーカーを諸手をあげて受け入れてくれたわけではありませんでした。

梅山ワーカーは、ジャワ島のバンドンにあるインマヌエル病院での診療に加え、週に2回、スメタン県のシリアシー診療所での診療もおこないました。朝5時に起きて医薬品を積んで家を出て、曲がりくねった険しい山道を1時間ほど運転してシリアシー診療所に向かいました。診療所に着くころには、200人近くの患者さんたちが待っています。梅山ワーカーは、シリアシー診療所での診察を終えると、インマヌエル病院に戻り、その後100人を超える入院患者の診察を続けました。

このような働きにより、梅山ワーカーに対する地

域の人たちからの信頼は高まりました。梅山ワーカーが帰国する時、教会の牧師が「ドクターウメと もっと早く出会えていたら、日本人に対する私たちの考え方もずいぶん異なっていたと思います。ありがとう。」と言ってくれました。インドネシアを去る日、宿舎から病院の門までの100mほどの距離を病院のスタッフや住民たちが列をなして、みんな梅山ワーカーを握手で見送ってくれました。

世界で分断や自国第一主義の動きが強まる中、JOCSは、国や宗教の違いをこえて共に生きる働きを通じて、「平和を実現するもの」であり続けたいと願っています。



世界の仲間と共に 皆様と共に



畑野 研太郎 (はたの けんたろう)

医師。1977年長崎大学医学部卒業。1985年から1994年、バングラデシュ・チッタゴン丘陵の少数民族居住地区にあるチャンドラゴーナ・キリスト教病院 (Christian Hospital Chandoragona : CHC) に赴任し、ハンセン病プログラムに取り組んだ。2009年から2014年、国立療養所邑久光明園園長。2015年からJOCS会長。

「確かに世界は変わってきている。良くなってきている」と、JOCS会報誌『みんなで生きる』461号 (2019年4月10日発行) の巻頭言で述べた。経験からそうした感触をもってはいたが、同時に半信半疑でもあった。

伊藤邦幸元ワーカー (ネパール派遣、医師) から聞いた話である (『同行二人』伊藤邦幸著にも記載)。1960年代にネパール・オカドゥンガに赴任した保健師のジル・クックさんは、ケロシン (灯油) ランプのスライドをもって便所が必要であることを人々に説いて回ったが、10年間の任期中ひとつの便所を見ることもなく帰国した。その後、岩村昇元ワーカー (ネパール派遣、医師) が日本からの青年ボランティアを率いて村の便所作りをしたが、グループの帰国後には使われている形跡がなかった。ところが伊藤元ワーカーの2度目の赴任時 (1989年頃) には、村の顔見知りの少年が父親と一緒に新しい便所掘りをしているところに出会ったというのだ。前の便所が一杯になってしまったためである。

バングラデシュでも繰り返し起こる大水害やサイクロン・高潮などのために、多くの人々が消化器感染症で亡くなったが、私の赴任中でもその数は驚くほど減少してきていた。人々が、飲み水の消毒用の錠剤を使用しなくてはならないと学んだからだ。最近読んだ1965年頃の東パキスタン (現バングラデシュ) の医療事情でも (『セント・アン病院での働き』立山恭子著)、それから約20年後に、私が別な地方で経験した状況とは大きく違っており、状況が良くなっていると感じた。

こういった印象は、ジェフリー・サックス著『貧困の終焉』を読んだ時も感じたものだが、この度ハンス・ロスリング著の『ファクトフルネス』を読んで確信が変わった。彼は様々なデータを駆使して、この世界は良くなりつつあると述べている。こうした主張には本当に励まされる。私たちはともすれば「負け戦」を戦っているような気持ちになってしまうが、実際にはゆっくりではあっても「勝ち戦」を闘っているのだ。私たちのJOCSも、小さいながらその一翼を担っている。それも皆様が共に闘ってくださっているおかげである。

昨年度も、お祈り・ご支援・お働きのおかげでJOCSは確実な歩みを続けられた。11年の働きを終えて山内章子ワーカーが帰国し、新しく雨宮春子ワーカーが出発した。奨学金事業、協働プロジェクトも着実に続いている。前述のハンス氏は、「悪い」と「良くなっている」は両立すると述べている。「誰も置き去りにしない」は、SDGs (持続可能な開発目標) の標語であると同時にJOCSの5カ年計画の目標でもある。それは「みんなで生きる」という標語のもとに歩み続けてきた私たちの祈りである。今も10億人の方々が一日2ドル以下で生活している世界を、皆様と共に一日も早く差別も極端な貧困もない「真に平和」な世界にできるように、今年も歩み続けてまいります。

公益社団法人 日本キリスト教海外医療協力会

会長 畑野 研太郎

JOCSとは

JOCSは、キリストの愛の精神に基づき、アジア・アフリカの国々への保健医療従事者の派遣や奨学金事業、現地団体との協働プロジェクトを通じて保健医療協力をおこなっています。1960年の創立以来、70人を越える保健医療従事者を派遣し、600人以上への奨学金支援をおこなってきました。JOCSは、すべての人々の健康といのちがまもられる世界を目指しています。

2018年度 活動地・支援先



目次

JOCSの思い	2	協働プロジェクト (プロジェクト・りとる)	12
ごあいさつ	4	国際保健人材育成	14
2018年度 活動地・支援先	5	国内活動	15
JOCSのこの1年	6	ご支援のかたち	16
ワーカー派遣	8	2018年度会計報告	18
奨学金事業	10	ご支援方法/会員数・役員	20

JOCsのこの1年

タンザニアで ママ・ナ・ムトプロジェクト開始

タボラ大司教区保健事務所 (TAHO) と共に、お母さんと赤ちゃんのいのちと健康をまもるための活動を始めました。



バングラデシュで訪問理学療法の広がり

障がいのある女性たちの集まり、女性クラブの活動の幅が広がりました。理学療法技術を学んだ女性がスタッフとなり、バングラデシュではおそろく唯一の、女性に特化した訪問リハビリを始めました。イスラム教の国では画期的なことです。(山内章子ワーカー)



バングラデシュでヴィパサナー瞑想

イエズス会の柳田敏洋神父をバングラデシュに迎え、ヴィパサナー瞑想を習いました。「身体で祈る」祈りのため、宗教の違いに関わらずアシスタントたちに受け入れられ、今も継続しています。自分自身の怒りや感情のコントロールの助けになっています。(岩本直美ワーカー)

4月

5月

6月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

3月

タンザニアの協力団体である TAHOのアレックス神父来日



JOCs東京事務局を訪問されました。

弓野綾ワーカー活動報告会 (5~7月)

タンザニア・タボラでの3年間の活動を終えた弓野ワーカーが、各地で活動報告会をおこないました。



使用済み切手運動を日本経済新聞で
取り上げていただきました！

社員総会で新しい理事と監事の選任

今期の理事会メンバーの居住地域は、北海道、宮城、新潟、茨城、東京、愛知、大阪、兵庫、岡山と、全国にわたる構成となりました。



コンゴ民主共和国東部で エボラ出血熱が再流行

流行地北キブ州に隣接するウガンダ・南ルウェンバ州で働く元奨学生から「警戒状態で、細心の注意を払って活動している」とメールで報告を受けました。

ケニア・シロアムプロジェクトに 山内章子ワーカーを派遣

ケニアで初の JOCs 奨学生が誕生

シロアムの園の理学療法士、ムハンジさんが奨学生に選ばれました。このほか、2018年度は6カ国、17人の奨学生が新たに選ばれました。



グローバルフェスタ (東京)に出展

使用済み切手を用いた貼り絵の展示が好評でした。



インドネシア・スラウェシ島大地震 被災者への緊急支援を実施

協力団体のGKSTシナルカシ病院の要請に応じて、10月と11月に支援をおこないました。現地では、JOCsの元奨学生の医師や看護師たちが医療活動に携わりました。奨学生1名が被害の最も大きかったバル市の学校で学んでおり、連絡がつかず心配しましたが、最終的に無事が確認されました。



事務局スタッフが、ママ・ナ・ムトプロジェクト対象の8施設の巡回視察に同行



四半期に一度TAHOが実施している巡回診療にJOCs事務局スタッフも同行し、データの収集や母子保健担当者との協議に参加しました。

初めて名古屋でフィールドワークを開催

JOCs 関西事務局 開所50周年感謝の つどい開催

50年前事務局を設けた浪花教会で開催し、100名以上がご参加くださいました



チャリティ映画会 『バベットの晩餐会』に363人来場！

オアシスブックセンター新宿店でイベントを開催

キリスト教書店で初めてイベントを開催し、JOCsの活動を紹介しました。多くの方にJOCsの活動を知っていただく機会となりました。



短期専門家派遣

ケニアのシロアムプロジェクトに原田真帆氏(特別支援教育)を、バングラデシュの岩本ワーカー派遣先に森数美氏(精神科医)を派遣しました。



JOCs ホームページ リニューアル

雨宮春子ワーカー派遣式

札幌聖ミカエル教会で、新ワーカーの派遣祝福式がおこなわれました。



山内ワーカー帰国

雨宮ワーカーがタンザニアに出発

3カ月間の語学研修を受け、その後、活動地であるタボラに移りました。タボラでは、ママ・ナ・ムトプロジェクトに加わり活動しています。

山内章子ワーカー報告会(1~3月)

バングラデシュでの3期11年間の活動を終えた山内ワーカーが、各地で活動報告会をおこないました。多くの出会い、再会がありました。





アジア・アフリカの 地域の人々と共に歩む

派遣されたワーカー（保健医療従事者）は、地域の人々と共に、苦悩や喜びを分かち合いながら、健康といのちをまもる活動をしています。ワーカーの活動は、任期終了後も派遣先団体や地域の人々によって活動が引き継がれていくことを目標としています。2018年度はバングラデシュとタンザニアにワーカーを派遣しました。弱い立場におかれた人々と共に歩みたいというJOCSの思いを持って、ワーカーは活動しています。

バングラデシュ 岩本直美(看護師)

活動の背景・目的

ラルシュ・マイメンシンは、知的な障がいのある人（コア・メンバー）と障がいのない人（アシスタント）が共に暮らすコミュニティです。第6期中盤を迎えた岩本ワーカーは、コミュニティが地域に受け入れられ、現地の人々による運営が実現することを目指して、人材育成と人の輪づくりに取り組みました。

活動成果

将来のコミュニティリーダーの育成のため、アシスタントのトレーニングを進めました。また、リーダーの選出基準などを定めて、異なる信仰を持つ人々が協働してコミュニティを運営できるよう法的文書も整えました。安全や財政面の必要から女性の家と作業所を移転し、コミュニティに暮らすコア・メンバー約半数（10名）の障がい者年金受給手続きを終えました。

次代のコミュニティリーダーたちの成長を支えたい

ゴートムさんはラルシュに暮らして11年目になります。コミュニティが選んだリーダーシップチームの責任者です。コミュニティリーダーである私が不在のときには、このリーダーシップチームがコミュニティの暮らしの全責任を担います。このチームを選出するとき、私やラルシュ・マイメンシンの理事会は一切かわりませんでした。中堅のアシスタント3名からなる選挙委員会が、実に公明正大な方法でチームを選出しました。料理担当や庭師のおじさんを含むほぼ全てのコミュニティのメンバーに、写真などを使って誰がリーダーとしてよいのか聞き取りました。メンバー一人ひとりが、自分の選



リーダーシップチームメンバーとゴートムさん(右)

んだリーダーに対して責任を負うような形で、チームの構成員が選ばれました。その結果、かねてより私が信頼を寄せてきたメンバーたちが指名を受けたことは喜びでした。

知的ハンディのあるコア・メンバーと、アシスタント、そしてコミュニティのメンバーたち皆が、共に在る喜びを生きることがこのコミュニティの強みです。そしてその賜物を日々生かし、良きモデルとしてメンバーたちを導いているのがゴートムさんです。ゴートムさんはウラオという少数民族で、家族の貧しさゆえに学業がままならず、ラルシュに暮らしながら通信教育で学びを続けています。障がいのあるメンバーたちと彼の絆の深さに触れるにつれ、確かに彼は「ラルシュのこころ」を生きている人だと感じます。彼の課題はそれを意識化・明文化できるようになること、そして自分自身の価値に目覚め、自信を持つことです。長い道のりですが、ゴートムさんを信頼し、彼の成長を支援していきたいと思っています。(岩本直美)



コア・メンバーのバッピーさんに靴をはかせるゴートムさん(左)

バングラデシュ 山内章子(理学療法士)

活動の背景・目的

マイメンシン障がい者コミュニティセンター（PCC）を主な拠点として、現地の理学療法技術者の育成、障がいのある女性たちの尊厳と生きる力の回復を目指して活動し、2018年12月に任期を終えて帰国しました。2019年1～3月には日本国内での報告会を通じて、ありのままに互いの重荷を負いあって生きる人々の歩み、平和の物語をお伝えしました。

活動成果

PCCでは理学療法スタッフ8名を育成し、週1回の理学療法外来ではスタッフと共に40～50人/日の理学療法をおこないました。また地方の理学療法技術者への指導・助言を継続しました。PCC女性クラブでは、障がいを負った女性たちの心身のケアや所得向上活動を技術的、精神的に支援し、女性たちの自主性、自立心を養いました。

レハナさんが、 障がいのある女性たちの 理学療法を担えるようになりました

レハナさんと初めて会ったのは2012年でした。母親を亡くし、弟妹6人の母代わりとなった彼女は、身体・知的障がいのある当時2歳だった末弟を連れてセラピーを受けにきました。私は、彼女が自宅でも弟に簡単な理学療法ができるように、彼女に基礎的な施術を教えました。それがきっかけで、彼女はやがてPCCの脳性麻痺児デイケアでボランティアとなり、子どもたちの理学療法を担い、母親たちに子どもの座らせ方や運動方法を伝えられるようになりました。

今、レハナさんは、女性クラブのスタッフとして、さまざまな障がいを持って生きる女性たちの理学療



レハナさん(左)と山内ワーカー

法・リハビリを担うまでに成長してくれました。彼女は言います。「この国では障がいのある女性は相手にされず、疎ましい存在として扱われています。つらい思いをしてきた彼女らの話に真剣に耳を傾けると、家族にも言えない痛みや多くのことを話してくれます。身体のケアだけでなく、話をよく聴き、心にどう向き合うかを日々学んでいます。彼女たちから教えられることが、たくさんあります。」(山内章子)

タンザニア 弓野綾(医師)



民族衣装を着て活動報告をする弓野ワーカー

2018年4月から7月まで、弓野綾ワーカーが日本国内で活動報告会をおこないました。

弓野ワーカーが取り組んだ慢性疾患外来での活動をはじめ、現地の人々との出会いの中で「共に生きる」ことに3年間どのように取り組んだのか、タンザニアにまかれたJOCSの活動の種がどのように育ち、実を結んでいるのかについて報告しました。

タンザニア 雨宮春子(助産師)

2018年12月に札幌聖ミカエル教会で雨宮春子ワーカーの派遣祝福式がおこなわれました。翌年1月、雨宮ワーカーはタンザニアに赴任し、ダルエスサラーム市内の語学学校で3カ月間スワヒリ語の研修を受けました。座学での勉強だけでなく、市場や病院の見学、現地の教会に通う人たちとの交流を通じて現地の暮らしや文化についても学びました。



語学学校での研修の様子



将来を担う人材を育てる

～保健医療従事者の育成と能力強化のために～

アジア・アフリカの国々には、人々が保健医療サービスを受けにくい地域が多くあります。JOCSでは、そのような地域で働く保健医療従事者に、奨学金による支援を通して研修の機会を提供することで、その地域の保健医療レベルの向上に協力しています。選考の際には、研修後もその地域にとどまり、その地域の人々のために働きたいと願う人を奨学生として選んでいます。

地域の人々のために活動する奨学生・元奨学生たち

ニラジ・ライさん

医師、TLMNアナンダバン病院 / ネパール



ニラジさんの働くアナンダバン病院には、多くのハンセン病の患者が治療を受けに来ます。しかし内科の専門医がいないため、十分な治療をおこなうことができません。このような状況を改善するため、ニラジさんは内科の専門医になるための研修を受けています。

インドラ・ジート・タパさん

薬剤師、UMNタンセン病院 / ネパール



インドラさんは薬剤師助手として10年以上タンセン病院で働いた後、JOCSの奨学金で薬剤師の資格を取得しました。研修を受けたことで、より丁寧に患者に薬の説明ができるようになりました。

ムハンジ・ハニントン・オソツイさん

理学療法士、シロアムの園 / ケニア



専門学校卒業後まもなくシロアムの園に採用されたムハンジさんは、障がいのある子どもたちへの理学療法と、お母さんたちへの自宅療法の指導をおこなっています。一人ひとりの子どもに、より適した理学療法ができるよう、働きながら大学の週末のコースで3年間かけて座学・実習を通じて実力を養っています。

マルガレータ・ハンサンさん

看護師、GMIMベテスダ病院 / インドネシア



JOCSの奨学金で小児看護の研修を受けました。長年ベテスダ病院で働いてきたため、以前取り上げた赤ちゃんが成長し、その子どもも取り上げることが増えてきました。これまで培ってきた経験や知識を若い看護師に伝えていくことに力を入れています。

フリッツ・レキシ・モンテジャイさん

医師、GKSTシナルカン病院 / インドネシア



フリッツさんは、JOCSの奨学金で医師になりました。2018年秋にスラウェシ島で大地震が起きた際、フリッツさんの働く病院は医師と看護師をいち早く被災地に派遣し、医療支援をおこないました。フリッツさんはその活動の中心となって、地震や津波で負傷した人の治療など、被災者の支援活動に取り組みました。

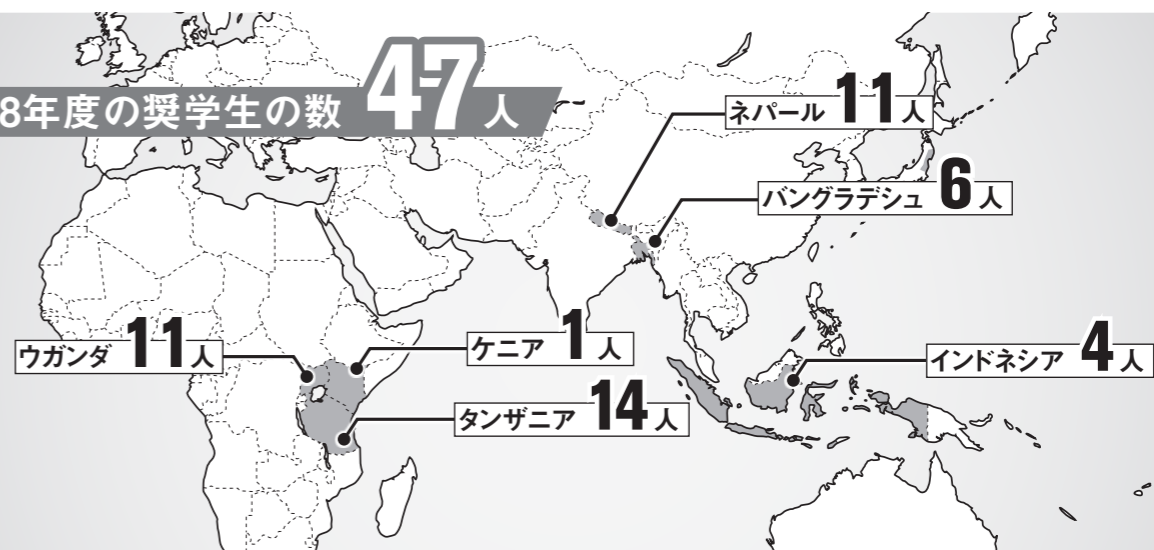
シュジット・ランサさん

准医療従事者・医長代行、カイクリ・ヘルスケア・プロジェクト / バングラデシュ



カイクリ・ヘルスケア・プロジェクトを立ち上げたベーカー医師の右腕だったシュジットさんは、ベーカー医師亡き後、医長代行として、村人たちからなるスタッフを率い、医療全般を担ってきました。パラメディック（准医療従事者）の学位を取得して村の公衆衛生の向上に貢献したいと、今、働きながら学んでいます。

2018年度の奨学生の数 **47**人



私がこの病院を、そして地域の人たちの健康を守っているのだという気持ちで日々働いています。

ウィリアム・ベネディクト・カイジャゲ医師 聖ヨハネ・パウロ2世病院 / タンザニア

私は1998年に医師補としてこの病院で働き始めました。多くの患者の命を救うためには、もっと知識と技術を向上させる必要があると思い、JOCSの奨学金を申請し、准医師の資格をとることができました。准医師になり手術ができるようになったことで、患者のためにより多くの医療サービスを提供できるようになりました。帝王切開などの手術がその一例です。私は病院の敷地内にある宿舎に家族と一緒に住んでいるので、急患にも対応することができます。体力的に大変なこともあります。患者の命には代えられません。

以前、JOCSは、タボラ大司教区保健事務所と診療統計分析能力強化プロジェクトをおこない、その活動の一環として、この地域の医療事情が悪いことを数値で説明する報告書を作成しました。その報告書を用いて説明することで外国の団体から支援を得ることができ、この病院に新しい病棟を建て、新たな医療機器を設置することができました。このプロジェクトは終了しましたが、プロジェクトによって作成できるようになった報告書が、今も私たちの活動を助けるものとなりました。

設備面の整備が進んでいる一方で、この20年の間に、多くの医師や看護師の同僚たちがより良い給与や環境を求めてこの病院を去っていきま

した。家族のことを考えると、私もそのような気持ちがなかったわけではありません。しかし、日々病院にくる患者のことを考えると、ここを去ることはできませんでした。現在、この病院にいる医師は、私と政府から派遣されている医師、そして院長であるシスターの3名だけです。政府の医師はいつ他の病院に異動になるかわかりません。院長のシスターはもう高齢です。私がこの病院を、そして地域の人たちの健康をまもるのだという気持ちで日々働いています。

この病院で働いていたからこそ、私は大きな恵みを受けることができました。JOCSの奨学金で学ぶことができ、倉辻忠俊元ワーカーのような尊敬できる素晴らしい医師とも出会うことができました。これからもこの病院のため、地域の人たちのため、働いていきたいと思っています。2018年秋、私は勤続20年を迎えました。病院でお祝いの会が開かれ、記念品としてきれいな空色の布でスーツを仕立ててもらいました。このスーツは私にとって誇りです。これからも、どうぞ私たちの働きのために祈りください。



入院中の子どもを診察するカイジャゲ医師 (左)



記念品のスーツを着たカイジャゲ医師



現地の力を活かした協力の形

現地の人々や団体と話し合って活動の目標と内容を決め、協力して保健医療活動をおこなっています。
2018年度はタンザニアで新しいプロジェクトを開始しました。また、カンボジアとケニアでのプロジェクトを継続しました。

タンザニア

ママ・ナ・ムトプロジェクト

ママ・ナ・ムトとは、スワヒリ語で母(ママ)と(ナ)子ども(ムト)という意味です



妊婦健診で胎児の心音を聞く元奨学生

2018年4月からプロジェクトを開始しました。プロジェクトの1年目は、活動の対象となるTAHO傘下の保健医療施設の産前産後健診、分娩のデータを集め、その状況を細かく把握することに努めました。2018年10月には、TAHOが四半期に1度実施している巡回視察に事務局スタッフが同行し、傘下の8施設を訪問し、母子保健部門担当者との協議にも参加しました。

妊娠の仕組みや妊婦健診を受診することの重要性を若いうちから学んでほしい

クラウディ・サドックさん 聖ヨハネ・パウロ2世病院 准看護・助産師

タンザニアでは4回妊婦健診を受診することが推奨されていますが、ほとんどの妊婦が1、2回しか受診していません。全く受診していない人もいます。また、妊婦健診を受けにきた人の多くが出産近くになって初めて受診しており、正しい週数と予定日を出すことが難しい状況です。妊娠高血圧などケアが必要な患者がいても、その後の治療や健康指導などをおこなうことが難しいのも大きな問題です。

タンザニアの学校では若年層に性教育をおこなうことを好まない風潮があり、HIVに関するものをのぞき、ほとんどおこなわれていません。しかし、妊娠の仕組みや妊婦健診を受診することの大切さを若いうちから学ぶ機会を提供することが必要であると考えており、今後JOCSと共に取り組んでいけたらと考えています。



TAHO傘下の保健医療施設への巡回視察

協力団体

タボラ大司教区保健事務所 (TAHO)

支援対象者

TAHO傘下の8の保健医療施設(病院や診療所など)およびその保健医療施設を利用する妊産婦と新生児

活動の背景・目的

タンザニアの死産と新生児死亡率の全国平均は、1,000人あたり51人です。全国平均と比べるとタボラのこの割合は非常に高く、中には全国平均の4倍以上の数値の保健医療施設もあります。産前産後健診の受診率の低さや、適切な産前産後健診と分娩介助がおこなわれていないことが原因と考えられています。JOCSはTAHO傘下の保健医療施設で母さんと子どもが適切な産前産後、分娩時のケアを受けられるようになることを目指して活動しています。

ケニア

シロアムプロジェクト

協力団体

コイノニア・ミニストリー シロアムの園

支援対象者

シロアムの園に登録された身体・知的・精神・認知などの発達の問題を抱えた子どもたち(2019年3月時点で登録児数84名、うち約40名が定期的に通所)とその家族

活動の背景・目的

障がいのある子どもたちに必要な教育・医療・福祉・社会保障などが整わないケニアで、シロアムの園は、障がいのある子どもや家族をありのままに受け入れ、包括的・全人的なケアを提供するために設立されました。シロアムの園の療育事業の基盤を整えるため、JOCSは2016年から、ワーカー・専門家の短期派遣や活動費の支援等を通じてスタッフの育成、療育カリキュラムや教材づくり、児のアセスメントや記録・評価の改善に協力しています。

障がいのある子ども神の似姿だと、人々に受けとめてほしい

グラディスさん チーフアシスタント(教師補助・キッチン担当)

私は、設立から間もない2016年からシロアムの園で働いています。子どもたちのことをもっとよく理解したいと思っています。特に^{けいせい}痙性が強い子、不随運動が強い子の体位は難しく、毎日が学びの連続です。この国では障がいに対する偏見が強く、てんかんは呪いだと思われている人も多くいます。人々が障がいのある子どもたちに出会い、彼らを知る機会がもっと必要です。私たちはみな神の似姿に作られています。障がいのある子ども神の似姿です。ケニアの社会がそれを理解し、受けとめられるよう、皆様どうかお祈りください。



グラディスさんと、シロアムの園に通うレスリー君

カンボジア

SALTプロジェクト

SALT=Sokkapheap Anamai La-or sumrup samai Tamey (クメール語で「次世代のための健康と衛生」)

協力団体

バタンバン司教区ヘルスセンター

支援対象者

バタンバン州内の16校の小学校高学年(5、6年生) および8校の中学2年生～高校1年生

活動の背景・目的

バタンバン州の農村地帯の子どもたちの多くは、感染症、栄養失調等の健康リスクにさらされています。タイ国境に近く、商業やカジノ等も盛んな土地柄、性的搾取の標的にもなっています。子どもたちの健康を守るため、JOCSはバタンバン司教区ヘルスセンターと連携し、2014年から5年間で24校の小・中学校で健康教育、思春期教育をおこなうことを目的として活動してきました。2018年10月からプロジェクトの最終年次に入りました。

妊娠や出産について学ぶことで、生徒たちは自分の命の大切さに気づいています

シスター・クリスティナ・アンティンさん
バタンバン司教区プロジェクト担当

カンボジアではインターネットが急速に普及し、若者は氾濫する性に関する情報に翻弄されています。ですから中高生への思春期教育はとても大切です。生徒たちは、妊娠・出産の仕組み、性感染症や麻薬・アルコール依存症などの正しい知識を、写真や動画を使って伝える授業に積極的に参加しています。出産シーンを観たある女子生徒は「妊娠・出産を自分のこととして考えるのは少し怖いです。でもこんなに痛い思いをして母が私を産んでくれたことを知り、今日は母に感謝を伝えます」と、分かち合ってくれました。



思春期教育の様子(グドルンターブ中学校)

国際保健人材育成

国際保健医療勉強会

前半3回は「異文化における地域医療・へき地医療支援」をテーマに3つの事例を取り上げました。社会経済、文化が日本とは大きく異なり、医療施設・設備・機器、医療人材に限られた状況で、何に重きを置き、どのような医療支援をおこなったのか、直面した困難をどう乗り越えたのか等を紹介し、海外でのへき地医療に従事する際に参考となる取り組みや工夫を伝えました。最終回はプロジェクトの概念と外部者として開発支援に携わる際に求められるマネジメント上の留意点などを説明しました。

第1回 2018年6月2日

異文化における地域医療・へき地医療支援
～タンザニア・タボラ州の事例～

■ 講師：弓野綾 元ワーカー（タンザニア派遣、医師）

第2回 2018年7月7日

異文化における地域医療・へき地医療支援
～バングラデシュ・カイラクリ村の事例～

■ 講師：乾真理子 元短期ワーカー（バングラデシュ派遣、医師）

第3回 2018年11月10日

異文化における地域医療
～パキスタン・ファイサラバードの事例～

■ 講師：青木盛 元ワーカー（パキスタン派遣、医師）

第4回 2019年2月22日

国際協力とプロジェクトマネジメント

■ 講師：森田隆 JOCS 事務局長

国際保健医療協力フィールドセミナー

フィールドワーク in 名古屋 ～野宿のおっちゃんたちから学ぶ2日間～

日程 2018年10月27日～10月28日（1泊2日）

訪問場所 名古屋市中区若宮大通周辺

貧困の連鎖の中に置かれた野宿者の現状を実際に見聞きし、夜回りや炊き出しで野宿者や支援者と交流の時をもちました。また気づきを分かち合うことを通して、参加者に、人生の目標を考え、行動を始めるきっかけを提供しました。



第2回勉強会講師の乾元短期ワーカー



第3回勉強会講師の青木元ワーカー

参加者の感想

バングラデシュ・カイラクリ村では、クリニックに来た人全員に医療を提供するのは難しく、より助かる可能性のある人を選んで治療しなくてはならないということに悲しみを覚えました。限られた資金でより多くの命を救うために必要なこととはいえ、その決断を下す医師の方々はやるせない気持ちで一杯だと思います。乾先生は、あるリンパ性白血病の男の子を診てあげられなかった時、医療行為はできなくても、家族写真を撮ってあげたら喜んでもらえたというお話をしてくださり、病気の治療だけでなく心を癒すことも医師にできることだと思いました。

小島祐依さん

（第2回勉強会に参加した、医師を目指す高校生）



炊き出しをおこなう参加者たち

国内活動

JOCS 関西事務局 開所50周年感謝のつどい

2018年11月17日（土） 日本基督教団浪花教会

関西事務局が最初に事務所を構えた浪花教会において、開所50周年記念イベントを開催しました。当日は100名以上の方がご来場くださり、関西事務局の元事務局長であり、現在は公益社団法人アジア協会アジア友の会事務局長の村上公彦牧師よりメッセージをいただきました。また、その後には土橋薫さんによるパイプオルガンコンサートがおこなわれ、懐かしく楽しいひと時を持つことができました。



パイプオルガンを備えた浪花教会の礼拝堂

チャリティ映画会

2018年11月22日（木） 亀戸文化センター

『バベットの晩餐会』を上映しました。本編上映前に、JOCS活動紹介動画『アサンテサーナ タンザニアにまかれた種』を上映し、JOCSへの支援を呼びかけました。



会場には多くの方がお集まりくださいました

来場者のアンケートより

- ・人に与えることは天の国へ招かれることだと映画から教わりました。
- ・動画でJOCSの活動がよくわかりました。

ワーカー報告会

任期を終えて帰国した弓野綾ワーカー（タンザニア派遣、医師）と山内章子ワーカー（バングラデシュ派遣、理学療法士）が、それぞれ3カ月間、日本国内で活動報告会をおこないました。

弓野ワーカー：2018年5月～7月(34回)

山内ワーカー：2019年1月～3月(42回)



報告会の様子（左：弓野ワーカー 右：山内ワーカー）

講師派遣・事務局訪問

アジア・アフリカの保健医療の現状やJOCSの活動について学んでいただく機会を提供しています。事務局スタッフが教会や学校など各種団体を訪問する講師派遣や、グループの事務局見学受け入れをおこなっています。

2018年度講師派遣：24回

2018年度事務局訪問：12回

参加した生徒さんの感想

切手を整理するという小さな作業でも、少しでも誰かの何かのためになっているということを知ることができてうれしかったです。このように身近なものでも自分でいろいろできるボランティアがあると思うので、これからもボランティアを続けていこうと思います。ありがとうございました。

ご支援のかたち

使用済み切手運動

JOCSの使用済み切手運動は、1964年の開始以来、「だれでも参加できるボランティア活動」として親しまれ、多くの方々が使用済み切手をお送りくださっています。毎週送ってくださる方や年に1度まとめてお送りくださる団体など、受け取る量も頻度もさまざまです。2018年度は、新規で送ってくださった個人・団体4,383件を合わせ、1万8,844件のご寄付をいただきました。また、書き損じハガキ、外国貨幣のご寄付もたくさんいただき、換金額約2,425万円をアジア・アフリカの保健医療活動に役立てることができました。皆様のご支援に感謝申し上げます。

古本募金

古本による募金活動「きしゃぼん」に、嵯峨野株式会社様のご協力のもとで取り組んでいます。2018年度は延べ223名のご支援をいただき、ご寄付の総額は約72万円となりました。

「一年間、回収日を決めて幼稚園保護者全員で集めました」という幼稚園の方、「亡くなった姉が集めていたものです。なにかの役に立てば幸いです」という個人の方など、本と共にさまざまなメッセージをいただきました。ご協力くださった皆様、ありがとうございました。

古本による募金活動は、通年お申し込みを受け付けております。下のウェブページ・電話番号からお申し込みください。宅配便業者が訪問し、送料無料でお引き取りいたします。どうぞよろしくお願い申し上げます。

<http://kishapon.com/jocs> 電話：0120-29-7000

地区JOCS

地区JOCSは、地域のJOCS会員、教会やYMCAなどで組織され、JOCSの活動を支えるための自主的な活動をおこなっています。

仙台 毎月第2土曜日 使用済み切手整理作業
弓野綾ワーカー報告会 (5月12日)
せんだい地球フェスタに出展 (9月17日)

足利 弓野綾ワーカー報告会 (7月15日)
第38回足利市民クリスマス (12月8日)
山内章子ワーカー報告会 (2月10日)

町田 毎月第3水曜日 使用済み切手整理作業
弓野綾ワーカー報告会 (7月1日)
クリスマス茶話会 (12月12日)
山内章子ワーカー報告会 (3月20日)

京都 第14回京都JOCSチャリティーウォーク (4月7日)
京都JOCSのつどい 弓野綾ワーカー報告会 (7月7日)
第40回京都JOCSチャリティーコンサート (9月21日)

大阪 関西事務局との共催「オープンサタデー」弓野綾ワーカー報告会 (7月28日)
関西事務局との共催「オープンサタデー」山内章子ワーカー報告会 (1月26日)

神戸 神戸JOCSのつどい 金井和夫さん (弓野綾ワーカーご家族) 講演会 (10月6日)
神戸JOCSのつどい 山内章子ワーカー報告会 (3月16日)

芦屋 芦屋JOCSのつどい 弓野綾ワーカー報告会 (7月8日)
芦屋JOCSのつどい 山内章子ワーカー報告会 (3月17日)

四国高知 四国高知JOCSのつどい 四万十集会 弓野綾ワーカー報告会 (6月23日)
四国高知JOCSのつどい 高知集会 弓野綾ワーカー報告会 (6月24日)
四国高知JOCSのつどい 四万十集会 山内章子ワーカー報告会 (3月23日)
四国高知JOCSのつどい 高知集会 山内章子ワーカー報告会 (3月24日)



京都JOCSのウォークの様子



足利市民クリスマス

支援者の声

高 校生のころ、尊敬する人は？と問われると「シュヴァイツァー博士」と答えていた私は、ある日、夫宛に届いた1通の手紙を読んで、「えっ、日本にもシュヴァイツァー博士のようなお医者様たちがいらっしゃるのね！」と、歓声をあげました。差出人は「日本キリスト教海外医療協力会」。キ医連 (日本キリスト者医科連盟 JCMA) を母体にこの団体を立ち上げられた方々からの、協力要請の文面でした。

当時、使用済み切手収集はすぐにできる協力のひとつでした。近所のお子さんへも呼びかけてその子の住所・氏名で送ったときには、その子宛にJOCSからのお礼ハガキが届き、喜んでいただきました。使用済み切手200枚が1人分のBCGワクチン代になるという説明は、当時の子どもたちにとって身近な分かりやすい表現でした。

植松功さん (JOCS元理事) とは教会が同じということもあって、いろいろ教えていただきました。ことに2001年におこなわれたバングラデシュへのツアーに参加させていただいたことは印象的で、その貴重な体験と思い出は、今も人生の宝物です。

今年の2月、現在入居している群馬県高崎市の新生会で、山内章子ワーカーに報告会をしていただきました。人と人とのつながりの歴史をさかのぼり、想いを伝えあう感動に加え、「みんなで生きる」ことを体験させていただきました。

JOCS会員 英久子さん

JOCSのみなさんへ

ぼ くたちは、愛媛県松山市立双葉小学校の6年生です。ぼくたちは、総合的な学習の時間に、世界で苦しい生活をしている人々について調べ、自分たちにできることはないか考えてきました。そんなときに、JOCSの方々がしている使用済み切手運動について知り、協力したいと思いました。全校のみんなに呼びかけて、古切手が集まりました。今回それを送らせていただきます。何かのお役に立つとうれしいです。

愛媛県松山市立双葉小学校 古切手集めグループ代表
稲葉琉人さん

1 1996年から関西事務局でボランティアをさせていただいています。岩村昇医師が派遣ワーカーとしてネパールで活動されておられた時、夫が「お母ちゃんホーム」で一時お世話になりました。そのご縁で夫から常々「時間ができたら、JOCSでボランティアをしてほしい」と言われていたこともあり、私自身JOCSの活動に関心がありましたので、関西事務局が梅田に移転されたころ、新聞でボランティア募集を知り応募いたしました。毎週の使用済み切手ボランティアの他、毎年5月に開催されるバザーのお手伝いもさせていただいています。

たくさんのボランティアの皆さんとのつながりができ、また海外で活動されているワーカーの方々を通して「みんなで生きる」ことの大切さを学ばせていただいております。

関西事務局ボランティア 杉山恵美子さん

初 めて使用済み切手をみんなで持ってきました。使用済み切手がどんな風に役に立つかお話を聞きました。4月から1年生になるけれど、これからも切手を集めます。

大阪友の会 幼児生活団
6歳組の皆さん



大阪友の会幼児生活団では、2006年からずっと切手を集めてくれています

2018年度会計報告

皆様のお支えにより、2018年度も海外での保健医療協力事業を遂行できましたことを心から感謝申し上げます

公益法人の会計について

公益法人には、「貸借対照表」と「正味財産増減計算書」の作成が義務付けられています。「貸借対照表」とは、年度末時点での法人の資産、負債、正味財産の有高を示すものです。正味財産とは、

資産から負債を引いた金額です。「正味財産計算書」とは、活動の結果、正味財産が1年間でどれだけ増えたのか、もしくは減ったのかを、その原因（収益、費用）と共に表したものです。

JOCSの財務状況

2017年度末に比べて会員数は49名減少しました。長年支援して下さった会員の方がご高齢やご病気などの理由で退会されたのが主な原因です。しかし、毎月引き落としの口座振替にしてくださいの会員が増えたため、受取会費は2%増加しました。また、受取一般寄付金は11%増加しました。東京事務局として賃借していた日本キリスト教会館51号室を、2018年10月に所有者から購入しました。購入資金には、以前いただいたご遺贈を積み立てていた事務所取得資金を充てました。これにより、年間約500万円発生していた賃借料を削減できました。その結果、昨年に続いて黒字となりました。

JOCSは長年赤字決算でした。そのため、管理費の削減に取り組むと共に、海外事業の予算規模を

縮小し、少ない資金でも現地の人々がより大きな力をつけられる方法を模索し、実施してきました。厳しい時代の活動を支え、共に歩んでくださった支援者の皆様に深く感謝申し上げます。

2019年度も、ワーカー帰国報告会、職員による教会訪問、キリスト教書店での活動紹介などで新規支援者を募集していきます。また、既存の支援者の皆様に活動をわかりやすく伝えて引き続きの支援をお願いし、より多くの人に健康を届けることができる財務状況となるよう努めてまいります。これからも変わらぬご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

なお、ホームページ上ではより詳しい会計報告の内容をご覧ください。

■ 貸借対照表 2019年3月31日現在

(単位：円)

資産の部	
1 流動資産	
現金預金	61,800,747
貯蔵品	7,490,818
前払金	963,278
2 固定資産	
特定資産	510,702,840
その他固定資産	17,707,223
資産合計	598,664,906

負債の部	
1 流動負債	7,733,284
2 固定負債	0
負債合計	7,733,284
正味財産の部	
1 指定正味財産	72,653,647
2 一般正味財産	518,277,975
正味財産合計	590,931,622
負債及び正味財産合計	598,664,906

■ 正味財産増減計算書 2018年4月1日から2019年3月31日まで (単位：円) △はマイナスを表す

科目	公益目的事業会計	法人会計	合計
	海外保健医療協力事業		
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 特定資産運用益	467,376	2,892	470,268
② 受取会費	22,425,639	5,606,406	28,032,045
③ 事業収益 (使用済切手収益等)	24,861,811	0	24,861,811
④ 受取寄付金	72,013,585	17,480,580	89,494,165
⑤ 雑収益	349,011	0	349,011
経常収益計	120,117,422	23,089,878	143,207,300
(2) 経常費用			
① 事業費	120,190,407	0	120,190,407
海外派遣費	18,468,546	0	18,468,546
奨学金	6,088,179	0	6,088,179
協働プロジェクト費	4,633,758	0	4,633,758
海外出張費	35,400	0	35,400
国内活動費	15,232,306	0	15,232,306
災害救援復興	203,100	0	203,100
研究活動費	912,450	0	912,450
会議費	645,861	0	645,861
募金・寄付経費	3,296,788	0	3,296,788
人件費	50,360,619	0	50,360,619
賞与引当金繰入額	3,230,742	0	3,230,742
退職給付費用	3,663,600	0	3,663,600
事務所費	4,648,344	0	4,648,344
減価償却費	1,996,560	0	1,996,560
事務用品費	3,109,846	0	3,109,846
通信費	1,533,013	0	1,533,013
支払手数料	1,146,782	0	1,146,782
旅費交通費	362,629	0	362,629
諸費 (租税公課)	621,884	0	621,884
② 管理費	0	24,045,727	24,045,727
人件費	0	12,652,136	12,652,136
賞与引当金繰入額	0	807,685	807,685
退職給付費用	0	686,400	686,400
事務所費	0	1,162,080	1,162,080
減価償却費	0	499,139	499,139
事務用品費	0	777,438	777,438
会議費	0	1,726,994	1,726,994
通信費	0	383,234	383,234
保険料	0	206,580	206,580
渉外活動	0	310,611	310,611
支払手数料	0	4,670,931	4,670,931
旅費交通費	0	90,653	90,653
諸費 (租税公課)	0	71,846	71,846
経常費用計	120,190,407	24,045,727	144,236,134
当期経常増減額	△72,985	△955,849	△1,028,834
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益	0	0	0
(2) 経常外費用 (固定資産除却損)	3	0	3
当期経常外増減額	△3	0	△3
他会計振替額	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	△72,988	△955,849	△1,028,837
法人税、住民税及び事業税	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△72,988	△955,849	△1,028,837
一般正味財産期首残高	487,832,676	31,474,136	519,306,812
一般正味財産期末残高	487,759,688	30,518,287	518,277,975
II 指定正味財産増減の部			
① 受取指定寄付金	12,355,000	0	12,355,000
② 一般正味財産への振替額	△1,206,394	0	△1,206,394
当期指定正味財産増減額	11,148,606	0	11,148,606
指定正味財産期首残高	61,505,041	0	61,505,041
指定正味財産期末残高	72,653,647	0	72,653,647
III 正味財産期末残高	560,413,335	30,518,287	590,931,622

ぜひ会員となってJOCSの活動を継続的にお支えください

一般会員

JOCSの活動を支える会員。総会の議決権や理事の選挙権、被選挙権はありません。

一般会費：年5,000円以上の任意の額
18歳未満の方は年2,000円以上の任意の額

口座振替

月々1,000円から。お申込書が必要になります。東京事務局へお申し出ください。

クレジットカード

JOCSホームページ (<https://www.jocs.or.jp>) からお申し込みください。

社員会員

JOCSを構成する会員。総会の議決権、理事の選挙権及び被選挙権をもちます

社員会費：年10,000円以上の任意の額

ご寄付は随時、任意の額でお受けいたします。
ご協力をお願いいたします。

郵便振込

ゆうちょ銀行（口座：日本キリスト教海外医療協力会 募金部 00170-3-13986）

- *当会へのご寄付、一般会員の会費は特定寄付金に該当し、寄付金控除を受けることができます。領収証は、毎年1月から12月までの会費・ご寄付の合計額をまとめ、翌年1月下旬に送付いたします。
- *当会への会費・ご寄付は、8割が事業費、2割が管理費として使われます。
- *会員と年間1万円以上の寄付をしてくださった方には、会報誌『みんなで生きる』を送付いたします。

遺産のご寄付について、くわしいパンフレットをご用意しています。
ご希望のかたには郵送いたしますので、東京事務局までお申し込みください。

✿ JOCS 会員数 3612名（うち社員会員316人）2019年3月31日現在

✿ JOCS 役員 (五十音順)

会 長	畑野研太郎（医師）
常務理事	大友宣（医師）
理 事	小宅泰郎（医師） 久保礼子（言語聴覚士） 土居弘幸（医師、大学教員） 名取智子（JOCS事務局次長） 榛木恵子（団体役員） 東岡牧（看護師） 森田隆（JOCS事務局長） 柳澤理子（保健師、大学教員）
監 事	倉辻忠俊（医師） 渡部芳彦（歯科医師、大学教員）



公益社団法人

日本キリスト教海外医療協力会

JAPAN OVERSEAS CHRISTIAN MEDICAL COOPERATIVE SERVICE

ホームページ

<https://www.jocs.or.jp>

E-mail

info@jocs.or.jp

東京事務局（月～金 9:00～17:00、土日祝休み）

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18-51

電話：03-3208-2416 FAX:03-3232-6922

使用済み切手運動に関するお問い合わせ

電話：03-3208-2418

関西事務局（月～金・第4土曜日 9:30～17:30、第4土曜日を除く土日祝休み）

〒530-0013 大阪府大阪市北区茶屋町2-30 大阪聖パウロ教会3階

電話：06-6359-7277 FAX:06-6359-7278



これは、JANICの「アカウンタビリティ・セルフチェック2012」マークです。JANICのアカウンタビリティ基準の4分野（組織運営・事業実施・会計・情報公開）について、当団体が適切に自己審査したことを示しています。